

災害に備えた動物の防災・避難準備はできていますか

東日本大震災において福島県では飼い主さんと動物を一緒に逃げた（同行避難）した犬は300頭、救護・保護された数は2,600頭、約1万頭が行方不明（多くは死亡）になりました。救護・保護された犬も里親に引き取られて飼い主さんと会えなくなった例も少なくありません。（猫は狂犬病予防法による登録制度がないので数は不明）。

犠牲になった理由として、自然災害だけでなく、行政による「置き去り」指示、飼い主さんがあとで助けにこようと餌や水を与えて家に繋いだままか、放して置き去りにした結果餓死や野生化によるものです。

災害時にあなたの大切な動物家族を救うのは、飼い主さんの初期対応とくに大原則である同行避難や防災準備です。そのためには、飼い主さんの普段からの防災準備や事前の心構えが大切です。

（愛媛県開業獣医師会（ベッツーえひめ）のホームページに原子力事故時の防災も含む災害時救護マニュアルを掲載しておりますので、ご覧ください。）

あなたの準備状況を、以下の項目□をチェックしてください。

●しつけ（日常から心がけましょう）

- 飼い主さんのいうことをきく（とまれ、まで、よし、こい、等）、
- 他人に馴れる。
- 他の犬と喧嘩しない。
- 拾い食いをしない。
- リードになれ人に添って歩く。
- ケージやスリング（肩掛け袋）に馴れる。
- 服などの装着をいやがらない（防寒、防水、放射能汚染防護衣など）。
- 人が抱き上げるのをいやがらない。

●動物の健康や飼育管理

多数の動物の集合によって感染や様々な発症が起りやすくなります。

- 狂犬病予防注射と登録（狂犬病予防法による義務）、
- 各種伝染性疾患のワクチン接種、
- 避難訓練—運動時に指定避難場所の経路と障害物などの確認。避難場所の動物同伴の可・不可避の確認、
- 避難グッズ（後述）を携帯した避難訓練

●身分証明の準備（救護時、避難所や保護施設での個体識別のため）、以下の物は、両手が使えるように袋に入れ、持ち出しやすい場所に置く）

- マイクロチップ装着（最も確実な方法で動物病院で装着できます）、
- 動物の写真（飼い主さんと一緒に映っているもの、連絡方法—携帯電話番号、裏面に動物種、被毛の特徴、体格、動物の愛称名など）、
- 健康管理メモ、
- かかりつけの動物病院名と電話番号、
- 狂犬病予防注射済票、
- 鑑札、
- 治療中の病名、
- 常備薬、
- 動物愛護センターの連絡先

●飲食物

- フード、水（5-7日分）、食器
（分量は大災害時に動物救護本部が稼働するまでの目安、過去の大災害時では、災害発生後7日程度で供給開始）

●衛生管理用品

- ペットシート、猫砂、バスタオル、ビニール袋、
- ゴム手袋、ティッシュ、ブラシ・クシ

●避難経路と方法

- 避難経路（複数を検討）
- 徒歩（キャリーバックやスリング—肩掛けの動物収容袋）、
- 車（ケージ、運搬や避難所の保護にも使用）

一般社団法人 愛媛県開業獣医師会

